

オープンソースを活用した 高等教育機関の情報基盤の開発と運用

金西 計英

徳島大学 高度情報化基盤センター

[アブストラクト]

大学の情報化は進んでおり、さまざまな情報システムが導入されている。その中で、情報システムの連携に対する要求が高まる。具体的には、システム間の SSO(Single Sign On)の実現である。さらに、大学間で情報システムを連携する試みも始まっている。徳島大学での実践に基づき、OSS を活用した大学情報システムの構築と運用について、システム間の連携を中心に、報告をおこなう。

[キーワード]

OSS、認証基盤、Shibboleth、Web アプリケーション、情報システム運用

[講演要旨]

高等教育機関の情報化は確実に進み、大学には様々な Web サービスが導入されている。e-Learning を始めとして様々なサービスが提供されている。情報化が進むにつれ、学生、教職員らのサービスの拡大を求めてくる。複数の ID とパスワードを管理するのは煩わしいことであり、また、システム毎にログイン作業をしなければならないのも負担である。そこで、SSO(Single Sign On)環境の実現が求められる。さらには、組織を超えた SSO が求められるようになる。

こうした組織を超えた SSO の枠組みを連携(Federation)と呼び、スイスの SWITCH、イギリスの UK-Federation、アメリカの InCommon 等で整備が進んでいる。

本稿では、徳島大学の事例を取り上げ、Federation の運用モデルについて議論する。単純な ID とパスワードの共有から、Federation が指向されるに至る道筋について述べる。Federation の構築にあたっては、オープンソースのフレームワーク、Internet2 で開発されている Shibboleth を用いる。しかし、Federation を運用するには、未だ問題が存在している。認可と認証が別問題であることが、Federation の運用を検討する中で明らかになってきた。この問題を解決するためのキーは、個人属性の情報変換である。認可を如何に制御するかは、重要な問題である。我々は、2 段階の属性変換によって、間接的な制御が可能になると考える。

[参考文献]

- (1) 金西 計英, 松浦 健二, 三好 康夫, 高木 知弘, 嵯峨山 和美, 矢野 米雄 (2008) 大学間 WEB サービス連携のための Shibboleth を用いた許可管理機能の実現, 日本教育工学会論文誌, 32(Suppl), pp. 93-96.